

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026年 3月 31日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 - 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	永峯 治之	経営	H1901102
	②	笠井 昌子	福祉	H2201084
	③	永井 努	経営	H2501030
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	たかはま保育園			
事業所連絡先	〒	108-0075		
	所在地	東京都港区港南4丁目3番7号		
	TEL	03-5781-0255		
事業所代表者氏名	三野 久美子			
契約日	2025年 6月 18日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 11月 10日			
利用者調査結果報告日	2025年 12月 9日			
自己評価の調査票配付日	2025年 11月 10日			
自己評価結果報告日	2025年 12月 9日			
訪問調査日	2025年 12月 19日			
評価合議日	2025年 12月 19日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事業所にて事前説明を行い、全体の流れや留意事項を確認した。また、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年 3月 31日

事業者代表者氏名 園長 三野 久美子

印

<p>1</p>	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)日本保育サービスの運営理念 ●安全＆安心を第一に保育・育成を実施します ●いつまでも思い出に残る施設となるよう日々の保育を大切にします ●職員が楽しく働けることで子どもたちを笑顔にします ●地域とつながり支え合う施設として社会に貢献します ●常に時代が求める子育て支援を実践し続けます</p> <p>2)日本保育サービスの保育理念 「未来(あす)を生きる力を培う」 自分らしく、生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います。</p> <p>3)日本保育サービスの3つの保育方針 ●自らの伸びようとする力を支えます ●五感を養って感性を豊かにします ●後伸びする力を育みます</p> <p>4)園の保育方針 ●生活する力 ●関わる力 ●発見、考え、表現する力</p> <p>5) 園目標「たかはま3つの心」 ●認め合い、思いやる心(関わる力) ●自分を信じてやりとげようとする心(生活する力) ●あそびこむ豊かな心(発見、考え、表現する力)</p>
<p>2</p>	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもへの想い・愛情を強く持っている人 保育への向上心を持っている人 積極的にコミュニケーションを取りながら意欲的な人 思いやりのある人 責任感があり、チームで協力して働ける人 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての倫理観を持ち、子どものための最善の利益を考えられる保育士。 ・日頃から、探求心を持って仕事を行っていきながら学ぶ楽しさを感じられる保育士。 ・人として、思いやりの気持ちを持って声を掛け合いながら助け合える保育士。 ・子どもたちの安全・安心の環境を守る保育士。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数	149
利用者家族総数(世帯)	120
共通評価項目による調査対象者数	63
共通評価項目による調査の有効回答者数	63
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	52.5

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>
 「満足」63%、「まあまあ満足」16%、計79%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>
 ・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	60	3	0	0
回答者の95%が「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	60	3	0	0
回答者の96%が「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	55	7	0	1

回答者の87%が「はい」と回答した。

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	51	9	2	1
回答者の81%が「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	43	6	2	12
回答者の68%が「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	40	9	3	11
回答者の63%が「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	47	5	0	11
回答者の75%が「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	39	11	2	11
回答者の62%が「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	50	2	0	11
回答者の79%が「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	46	5	1	11
回答者の73%が「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	43	6	2	12
回答者の68%が「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	10	3	25
回答者の40%が「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	44	7	1	11
回答者の70%が「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	42	4	1	16
回答者の67%が「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	41	10	1	11
回答者の65%が「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	38	6	2	17
回答者の60%が「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	34	10	4	15
回答者の54%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
	7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	〇非該当	
〇非該当		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
〇非該当		
〇非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
〇非該当		
〇非該当		
〇非該当		
カテゴリ1の講評		
園が目指していることを様々な資料を活用して保護者や職員に周知している		
園の目標や法人の理念、保育方針を入口に分かりやすく掲示している。また、重要事項説明書の内容について、説明後すべての家庭から確認のサインをもらっている。園だよりやクラスだより、さらにはアプリを活用して園目標やクラス目標を周知するなど保護者への情報提供を行っている。職員に対しては入社時の研修で方針や理念を説明するほか、年度初めの職員会議において同内容の共有化を図っている。併せて事務所内の分かりやすい所への掲示及び社員証のケースに方針・理念の資料を同梱するなど、きめの細かい方策を取っている。		
園長は明確なリーダーシップのもと、職員との協働による園運営に取り組んでいる		
園長は職員会議や昼礼その他日々の職員とのコミュニケーションを通じて、園の目標やそれを達成するための自らの役割を説明している。職員数が多いため、職員全体ライン等のアプリ活用も進めている。指定管理者でもあることから、港区の所管課との対応や、本部からの指示等を職員に的確に伝達(説明)するよう努めている。園長は子どもへの関わりや保護者対応などを実際に職員の前で自らやって見せるなど、職員の持つ保育への不安感の払拭や保護者対応への疑問に答える姿勢を見せている。		
主に「業務マニュアル」に定める手続きに沿って、重要な案件について決定している		
園における重要な事項の決定は、「保育園業務マニュアル」が定める手続きに沿って進めている。案件によっては港区や本社が判断する場合がある。重要な決定事項については「【重要】」と明記し、クラウド型の社内掲示板・情報共有ツールに掲載するとともに、職員会議及び昼礼で職員周知をしている。またリーダー会議で情報提供することでリーダーによる職員への伝達も促している。保護者に対しては園だよりやクラスだよりを活用するほか、アプリ配信を併用している。さらに親子行事の際には懇談会の場での周知を図っている。		

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
2 カテゴリー2の講評		
<p>様々な手法を活用することで、利用者ニーズや園運営の課題を具体的に把握している</p> <p>個人面談やクラス単位の保護者会を定期的で開催したり、行事ごとにアンケートを実施するなど保護者の意向を把握するよう努めている。アンケート結果は必ず保護者にフィードバックしている。さらに、見学者から疑問点や要望を聞くなど、地域の子育て世代のニーズの把握にも努めている。職員については区や地域園長会、港南地域連合の会議等において把握した課題を職員会議やリーダー会議で共有している。</p> <p>港区や本社の方針を受けて、園として中長期計画を策定し個別事業計画に反映している</p> <p>園が目指していることの実現に向け、計画期間が3年の中期計画、5年の長期計画を策定している。この中長期計画に基づき、年間保育・保健指導や食育、消防訓練計画等の個別の事業計画を策定し、日々業務を遂行している。年間の事業運営や施設管理経費については、個別の算定に園長が関わり、本社と共有しつつ年間の予算編成を実施している。特に区立の複合施設であることから、園長の積極的な働きかけにより清掃業務の共通化など、個々の施設の経費や人員の負担軽減が図られるなどの効果もみられる。</p> <p>目標達成のために計画の評価・見直しを定期的に行い、事業を着実に実行している</p>		

職員会議で施設目標・エリア目標を職員に提示したうえで、職員に対しては個人目標中心の目標管理シートを作成させ、四半期ごとの面談により進捗具合を確認している。個々の事業について、その進捗状況を四半期ごとに確認し、定期的に評価・反省点をまとめ報告書を作成している。これらの情報を区(芝浦港南地区総合支所)と共有している。以上の活動から導き出された課題について、職員会議をはじめ職員参加で検討・提案・改善等の工夫について議論し、事業の見直しにつなげている。

3			カテゴリー3	
3			サブカテゴリー1(3-1)	
経営における社会的責任			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当	
3			サブカテゴリー2(3-2)	
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当	
3			サブカテゴリー3(3-3)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当	

カテゴリー3の講評

職員へのコンプライアンスの徹底を図る教育を組織として取り組んでいる

社会人として及び保育従事者として守るべき規範について、全職員が法人の作成したコンプライアンスに関する動画を視聴する機会を設定している。また、具体的な規範の内容等は保育園運営規定や業務マニュアル、就業規則等に明記されており、これらを職員がいつでも確認できる場所に整備することで、意識の徹底を図っている。さらに、コンプライアンス等に関する重要な研修については、職員に対し積極的に受講を働きかけるとともに、港区及び法人に受講報告が義務付けられている。

苦情をはじめ保護者の意向については、様々な方法で把握し業務の改善につなげている

苦情の申し出については、園以外にも区役所や第三者機関に窓口があることを重要事項説明書に明記するとともに、保護者に対し入園時に説明をしている。また園内には苦情相談窓口を掲示し、意見箱も設置している。行事終了後にはアンケートを実施し、保護者の意見や要望を把握するようにしている。園に直接申し出があった保護者の意向については、「クレーム受理票」を作成し、時を置かず個別に面談を実施して解決を図っている。対応困難な事例の場合は園長等経営層が対応するとともに、関係職員による会議を招集し問題の解決を図っている。

地域の様々なネットワークに参加し、その中で地域貢献の取り組みを積極的に行っている

複合施設の特徴を活かした「ぶらっと広場」の行事に協力する形で、近隣公園で月に一回子育て支援活動を行っている。また、地域の保育需要に応えるため、一時保育・緊急一時保育・休日保育・年末保育を行っている。さらに、地元中学生の職場体験を積極的に受け入れている。地域活動が特に熱心である港南地域連合会の会議に園長が毎月出席し、園の広報を兼ねて地域住民の方に園行事への参加を依頼したり、地域行事へ園としての参加を提案するなど、地域との密接な関係づくりに努めている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>想定される各種リスクに応じて優先順位に基づき対応策を策定している</p> <p>法人の運営する各施設で起こった重大な事故に関して、職員間で情報共有し再発防止策を検討することで、自園での発生防止につなげている。感染症をはじめとする健康危機管理に関しては、看護師が職員向けに研修を実施している。不審者対応については訓練を録画しその内容を職員で共有するとともに検証をしている。リスクに応じた優先順位に基づき様々な訓練を計画的に実施している。具体的には、「いのちを守るCPR(心肺蘇生)訓練」や「消防・防犯訓練」などを決められた時期に実施している。</p> <p>リスク発生時にすべての職員が適切な対応ができるような体制を整えている</p> <p>災害や重大事故発生時の業務継続計画を策定し、職員間で共有している。危機管理において重要な事項についてはクラウド型の社内掲示板・情報共有ツールに【重要】と明記するとともに、昼礼で職員周知を図っている。実際に事故等が発生した場合には、ガイドラインに基づき直ちに港区と法人に報告するとともに、当該クラスを中心に検討会議を開き、職員間で議論を深め再発防止に努めている。さらに、看護師がクラスごとの事故の種別、件数等を集計し、原因の分析や対策の立案に活用している。</p> <p>各種情報は適正に収集・管理し、個人情報の取り扱いは法令等を順守して行っている</p> <p>各種情報の収集・利用・保管等については、保育園業務マニュアルに沿った指導や研修の実施により、職員の理解を深めている。園の特性として子ども関連の様々な個人情報を扱っているため、個人情報保護法や港区の個人情報保護条例及び法人の個人情報管理規定に基づいた管理を徹底している。収集した情報は事務所の施錠できる書庫に保管するとともに、データ化された個人情報は外部ネットワークと接続できないパソコンにパスワード付きのファイルで管理している。保護者に対しては、個人情報の取り扱いについて重要事項説明書で入園前に説明している。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当	
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当	

● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当
-----------	--	-------

カテゴリー5の講評

採用は法人求人サイトを活用し、配置は職員の意向等を踏まえて行っている

職員の採用事務は法人が求人サイトを活用し一括して行っている。採用面談には園長が参加して人材確保の一端を担っている。法人では職員本人の現在および将来の意向を把握するため「未来キャリアアンケート」を実施している。その内容に基づき、必要に応じて園長が面談をし、適正な人事配置になるよう取り組んでいる。また、全職員が法人の配信する「新人育成計画ガイドブック」を閲覧することになっており、法人(園)が求める人材像を習得することができる。

キャリアパスの理解を進め、職員の希望や職位・職層に応じた人材育成に取り組んでいる

法人作成の「新人育成ガイドブック」や「職務・職能要件定義」(育成ビジョン)を活用して、キャリアパスの周知を図り、キャリアアップの支援につなげている。育成の具体的内容として、職員個人が年間研修計画を半期ごとに立て、園長が四半期ごとに本人の評価・反省をもとにアドバイスをを行っている。また月に一度リーダー会議を行い、子どもをはじめ職員や保護者の状況を報告してもらい、それに対し園長が助言・指導を行っている。

職員の個別面談や職員相互のコミュニケーション活動を通じて意欲向上に取り組んでいる

評価シートを使用した年2回の自己査定時に園長が面接し指導している。また個別の面談により職務内外の悩みなどを聴き、解決のためのアドバイスや業務上の課題を設定・共有するなど、職員の意欲向上に努めている。新規採用や異動で園に配属された職員に担当のチューターを配置し、早期に職場に慣れたり様々な相談に乗ることのできるよう対応をしている。クラス会議においてコミュニケーションワークを実施し、職員間のコミュニケーションスキルの向上に努めている。休暇の取得や休日等の出勤に関しては、職員の希望を聞いたうえで調整し決定している。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>前年度からの重要課題として、誰もが意見を出しやすく、安心して働ける「風通しの良い園づくり」を目標とした。その背景には、職員間の情報共有に改善の余地があること、業務に対する考え方の統一に改善の必要があったことなどがある。目標達成のために行った取り組みとして、日々の昼礼時に各クラスから1名が参加し保育状況や困りごとを共有をする仕組みを導入した。また、月に1度「enjoytime」を設け、各クラスから1名参加し会話やレクリエーションの時間を設けた。さらに、園長以下経営層が現場に入り、職員の話を直接聞く機会を増やすなど、相談しやすい環境づくりを行った。これらの取り組みにより、職員間のコミュニケーションに改善が見られた。今後も、こうした取り組みを継続し、コミュニケーションをより一層促進していく方針である。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>職場全体で「話しやすさ」を大切にする仕組みを整えたことは、チームとしてのまとまりを強める大きな一歩となった。情報共有の場をルール化し、日々の悩みや状況を伝え合う機会を作ったことで、クラスの垣根を越えて協力し合える土壌が育っている。また、園のリーダーたちが現場へ歩み寄り、一人ひとりの声に耳を傾ける姿勢を明確にしたことは、職員の不安を取り除き、組織への安心感を高めるきっかけとなった。こうした交流の積み重ねは、単なる業務の効率化に留まらず、全員が同じ方向を向いて保育に取り組める健やかな環境を築き上げたといえる。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

保育定員149名を確保するため、地域の子育て家庭のニーズを把握するとともに、当園の存在を地域に周知することを目標とした。このため、地域の子育て家庭対象の「保育園で遊ぼう」の内容を見直した。具体的には、参加者へのヒアリングと並行して離乳食の試食やお散歩体験、保健指導を実施するなど、ニーズ把握と保育活動の現状理解に努めた。さらに見学の積極的な受け入れや、一時保育利用時の面談を通じて保育現場や職員の雰囲気を感じてもらう機会を設定した。これらの取り組みの結果、把握したニーズに応じた保育サービスの改善を図ることができ、また、地域における園の存在感を高めることができた。今後も、地域における保育の専門機関として、力を発揮し、地域のニーズに応じていく方針である。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

定員を埋めるという目的だけでなく、地域で暮らす親子とのつながりを見直した点に大きな価値がある。イベントを「ただ遊ぶ場」で終わらせず、離乳食の試食や普段の散歩を見せる体験型にしたことで、園の特色や日常が保護者へ自然に伝わるようになった。また、見学や一時保育での会話を大切に、職員の温かさを直接肌で感じてもらう工夫は、安心感という一番の信頼につながっている。保護者のリアルな声を聞いてすぐに改善へつなげる姿勢は、地域から「ここなら安心」と頼られるきっかけを作った。こうした地道な交流は、園を単なる預け先ではなく、地域の子育てを支える心強いパートナーへと進化させている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>園生活の様子がわかるようホームページやパンフレット等で情報提供している</p> <p>区・法人のホームページや区の入園案内の冊子に事業所情報を掲載している。見学者や利用希望者には、パンフレットを配布して情報提供している。園見学は、基本一組ずつ十分な時間を設けて受け入れている。利用希望者は事前予約の上で園を訪問し、園長または副園長が案内している。法人の保育理念、園の保育方針と園目標を説明し、併せて質問等に答えている。外部講師を受け入れて展開している多彩なプログラムや食育等の取り組みについては、実際の活動の様子を利用希望者に見てもらおう等、園の活動の魅力がきちんと伝わるようにしている。</p> <p>地域の団体等が集まる会議には積極的に参加し、園の情報提供を行っている</p> <p>地域の近隣施設との連携により、地域に根ざした保育園運営に努めている。運営主体の法人、区の主管課担当に毎月報告し、園内の情報を共有する仕組みがある。区との連携体制を大切にして、事業内容等については承認を得て進めている。地域連合会議等に出席し、地区運営会議では情報収集や意見交換を行っている。運営会議には、幼稚園、小学校、中学校、マンション等の自治会、各種団体等が参加しており、地域情報を共有することができる。運営会議等を通じて地域の子育て世帯向けに一時保育や「保育園であそぼう」等、園の取り組みを伝えている。</p> <p>園見学やホームページ、展示等、様々なツールを活用して園の情報を提供している</p> <p>園見学は予約制とし、電話や保活ワンストップを介した予約システムを確立している。スケッチブックを活用して保育場面の写真とコメントを記載し園内に展示し、各クラスの活動の様子をいつでも知ることができるようにしている。外国にルーツを持つ保護者向けに、園のホームページや説明文書は英語表記を選択できるよう用意している。また、区ホームページからハイパーリンクで外部の法人サイトへ移動できるようになっている。法人の下層ページは、動画や写真を豊富に使い、取り組みごとに子どもたちや職員の様子、表情がわかりやすい構成になっている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園面談シートを使い、子どもの状況や保護者の意向を多角的に聴き取りしている 入園時には入園説明会、個人面談を実施し、利用にあたっての基本的な内容説明や質問事項等について対応している。面談では、園で作成している「入園面談シート」を使い、個々の状況や保護者の意向・要望等、保育に必要な情報を漏れなく収集できるよう配慮している。入園面談シートは年齢により異なる内容で、16～20項目で構成されている。各項目では、食事、睡眠、排泄等、生活状況を細かく確認できるようになっており、慣れ保育の希望も記録している。これに加えて職員の気づき等も記載され、面談後に職員間で共有し、保育に活かしている。</p> <p>新入園の親子が安心して保育園で過ごすことができるよう温かく迎える体制がある 重要事項や個人情報の取り扱いについて内容を確認し、同意書を頂いている。年度途中に入園する場合にはその都度、同様の説明を行っている。新入園児が安心して過ごすことができるよう、個々の状況に合わせて慣れ保育を行っている。保育時間や期間等は、都度、保護者と相談しながら対応している。また、0歳児のクラスについては入園後の安心につながるよう、初日にクラス懇談会を実施し、子どもの姿やクラス運営について伝えている。年長児が作成した入園のプレゼントを渡したり、年長児から歌のプレゼントを行ったりして入園を祝う機会も設けている。</p> <p>子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した取り組みを行っている 保護者の不安を軽減するため、質問や相談についてはできる限り迅速に対応し、子どもと保護者の安心につなげている。小学校へのスムーズな接続のため、小学校から提供される情報や地域の情報を保護者に伝え、近隣の小学校等と連携して年長児は交流を行い、小学校への期待を膨らませている。卒園時には、保育所児童保育要録を作成し就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。また、小学校の公開授業に職員が見学に行ったり、地域行事等に職員が参加したりすることで、就学後の卒園児や保護者と関わる機会や様子を見守ることができている。</p>			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
各クラスが園の理念・方針に則り全体的な計画を踏まえた保育計画を作成・実施している 毎年、全体的な計画の見直しを行い、園全体の方向性や考え方を統一できるよう取り組んでいる。年間指導計画や月案は、全体的な計画を踏まえ、養護と教育の各領域を考慮し各クラスごとに作成している。子どもや家庭状況の変化については、職員会議等で、都度報告している。話し合いの中で課題を明確にし、全職員が子どもの育ちを理解して、必要な情報の共有に努めている。また、緊急時の安全な引渡しを確保するため、年度当初には緊急時引渡し票の更新をしている。年度途中で変更があった際には、その都度、保護者に記入してもらい適切に管理している。		
必要な子どもに個別支援計画を作成し、子どもに必要な援助や保育を実施している 定められた期間にそれぞれ児童票を記入し、日々の保育日誌や連絡帳等、様々な記録を通して個別の情報や状況を整理している。特別な配慮が必要な子どもや、乳児クラスは、毎月の個別支援計画を作成し、具体的な子どもの姿や援助について記載している。また、区の巡回指導では、定期的に臨床心理士・言語聴覚士・作業療法士に集団生活の中見えたことや園ができる支援等についてアドバイスを受けることができる。巡回時には記録を作成し、指導後に今後の課題を確認している。助言等の申し送り事項は、職員会議で全体に共有し保育に活かしている。		
さまざまなツールで園の保育を発信しつつ、保護者ニーズを汲み取り支援に活かしている		

保護者会でのクラス資料や園だより、クラスだよりをシステムで配信し、園目標やクラス目標、年間行事等について説明している。事務所横に各クラスの週の計画を掲示し、いつでも見ることができるようにしている。乳児クラスは連絡ノート、幼児クラスは送迎時の会話等でも日々の保育や子どもの姿を園と家庭とで共有している。申し送りや引継ぎ事項は、昼礼報告や昼礼ノートを通して共有し、連絡漏れのないよう周知を徹底している。保護者に随時に話を聞くことも行っている。聞き取りした相談内容は記録に残し、必要に応じて保育サービスに反映している。

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>全職員が子どもの権利擁護に関わるチェックリストを実施し、意識を高めている</p> <p>職員会議等では、子どもに対する言葉かけや対応等について話し、職員が相互に日常の言動を振り返る機会を設けている。法人の人権チェックを活用し、子どもの人権尊重に関する意識付けを行っている。こちらは、登降園、日中の活動、食事、午睡等それぞれの場面ごとにふさわしい保育を行っていたかについて、チェックできるようになっており、保育のあり方について解説も添えられている。人権ファシリテーターが、研修で得てきたことを研修として全職員に伝え、子ども一人ひとりに寄り添う姿勢や、プライバシーを守ることに学びを継続している。</p> <p>虐待防止や育児困難家庭への支援に関する研修への参加、職員間での共有が行われている</p> <p>生活や遊び等、日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、子どもの人権について考えプライバシーを保護している。幼児クラスは身体測定や水遊びの着替えの際に男女別で行い、3歳児以上の各部屋のトイレは個室仕様になっている。保健指導では、年齢に合わせ、子どもが自分の体を大切にすることを意識するように働きかけている。育児困難や虐待が疑われる場合にはまず、園長に報告し関係機関と連携して速やかに必要な対応が取れる体制がある。法人本部、子ども家庭センター等と連携し、情報を共有しながら職員の知識や認識、対応力を深めている。</p> <p>子ども価値観や多様性を尊重し、一人ひとりに寄り添う保育を心がけている</p> <p>個人情報の取り扱いについて、保護者に確認し同意を得ている。子どもに関する情報を他機関とやりとりする必要がある場合は、園長の管理のもと慎重に対応している。子どもの自主性を大切に保育環境を整え、子どものありのままを受け止めながら保育を行っている。子どもが遊びや生活の様々な場面で、「食べたくない」「行きたくない」「やりたい」等、主張した時は、まず思いを汲み取り、一緒に考え、選択できるようにしている。また、様々なアクシデントや事件等があった際には職員間で話し合う機会を作り、注意喚起とともに再確認している。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子ども様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>詳細にカテゴリ分けされたマニュアルが備えられ、いつでも閲覧・確認することができる</p> <p>保育園業務マニュアルをはじめとする災害対策、個人情報保護、虐待対応ほか、詳細にカテゴリ分けされた支援マニュアルが網羅的に整備され、いつでも閲覧できるようになっている。これらは区のガイドラインに沿ったものとなっている。法人本部の委員会が作成、定期的に見直しをしている。年度当初には、適宜、マニュアルの読み合わせを行い確認している。提供しているサービスがマニュアルに沿ったものとなっているか、毎月、本部から内部監査も入っている。また区の指導監査も、年1回行われ、業務の質の維持・向上が図られている。</p> <p>職員は主体的に課題解決に取り組み、業務水準の維持・向上を図っている</p> <p>本部の委員会が作成したマニュアルに加え、当園独自のマニュアルも作成されている。早番・遅番の仕事内容、散歩に出かける際の手順など、現場の業務に関する具体的な項目で構成されている。この園独自マニュアルは、職員の意見を反映して作成されている。職員会議には、「業務改善」について全職員で話し合い見直しに取り組んでいる。改善すべき点を提起して、課題の原因を追求しながら解決策・アイデアを検討し、取り組みの内容を具体化する。解決策・アイデアの実行と改善に向け、実際に実施して振り返りと検証を重ねている。</p> <p>保護者の意見を吸い上げ、保育業務運営に反映させ保育の質の向上につなげている</p> <p>園内にはご意見箱を設置し、行事ごとに無記名のアンケートを行い、保護者の意見を吸い上げる仕組みがある。この他に、クラス懇談会、個人面談や、「親子で芸術鑑賞会」等、行事へ参加する取り組みを通じて、園の保育についての意見交換や保護者の率直な声を聴く機会を設けている。保護者から寄せられた意見・要望を真摯に受け止め、職員間で共有・検討し、保育の質の向上につなげている。また、保育業務支援システムの活用を進めており、おたより等の配信や家庭との連絡、一斉配信、行事後のアンケートの実施等、業務改善と利便性を向上させている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもに関する情報を職員間で共有し、発達に応じた保育を工夫している</p> <p>入園時に子どもの状況を規定の書式に記入し、個人面談で保護者の想い等を丁寧に聞き取っている。乳児クラスは個別のノート、2歳児以上は保育日誌を毎日記入し、日常会話や連絡帳のやり取り等から子どもの姿を把握している。また、子どもの成長に合わせた環境設定に取り組んでいる。玩具に関しても年齢に合った物を選び、手作り玩具を作る等工夫している。0、1、2歳児クラスではコーナー保育を取り入れ、幼児クラスでは、年度当初にクラスの年間テーマを決めて、テーマに沿った活動や製作を行ったり、環境構成を整えたりして取り組んでいる。</p> <p>子どもの状況や興味に合わせ環境を変えながら遊びをつなげたり、広げたり展開していく</p> <p>子どもの成長・発達、興味・関心に合わせて環境設定を定期的に見直している。子どもの動線を考えた配置の工夫で、落ち着ちついで遊び込めるよう配置したり、静と動の遊びのバランスを考えたり環境の工夫をしている。保育士は、子ども自身が主体的に関りながら、遊びを展開していくことができる援助を追求している。特別な配慮を必要とする子には、職員が傍について、それぞれの子どもが必要な支援を受けながら同じ場で遊び、コミュニケーションを取る中で、様々な経験を積み重ね互いの違いに気付き、認め合い、成長できるような保育を行っている。</p> <p>職員は、子どもの発達の過程の理解を深め、適切な援助ができるよう研鑽に励んでいる</p> <p>子ども同士のトラブルは成長過程の一つとして捉え、互いの気持ちを汲み取り、話しをよく聴き、代弁や仲立ちしたり、見守りながら子どもの気持ちに寄り添い丁寧に対応している。また、小学校教育への円滑な接続に向け、小学校との交流や保育所児童保育要録や就学支援シート等の提出等、連携を取っている。さらに、担任のクラスの取り組みや、子どもの状況や発達の理解を深めるための取り組みとして職員を入れ替え保育にあたる機会を設けている。俯瞰的視野で保育を見直し、感じた事を伝え合い、新たな発見を共有して保育の質の向上を図っている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			○非該当
評価項目2の講評				
<p>子どもの健康状態を確認し、保護者と共有して保育を行っている</p> <p>0～2歳児室は、廊下から保育室に入手前に「受け入れ室」が設置され、感染症予防の観点から登園時一人ずつ順に受け入れ室での視診を行い、体温だけでなく鼻水や咳、排便、皮膚の状態を聞き取り、視診表に記入している。幼児クラスも受け入れ時には必ず家庭での様子を確認している。連絡ノートの記載内容、体調面や傷の有無に気を配り、気になることは直接保護者に確認し、職員間で共有し、降園時には一日の様子を保護者に伝えている。子ども一人ひとりの様子を観察して配慮点を整理し、子どもの生活が安定するよう保育を行っている。</p> <p>成長に応じた働きかけや環境の工夫で基本的な生活習慣が身につくよう援助している</p> <p>乳児保育では担当制を導入している。食事、排泄、睡眠、着脱等の生活全般を決まった職員が毎日援助することで、子どもの情緒の安定に配慮し、少しの変化や成長に気付けるよう関わりを深めている。一人ひとりの発達に応じた言葉かけを心がけ、子どもが基本的な生活習慣を獲得することを支えている。施設内のスペースを有効に使い、食事と遊びのスペースを分けたり、ランチルームを活用したりして、子どもが空間の意味づけを理解し、室内のどこで何をするかを理解することで、自分から見通しを持った行動が取りやすくなるよう環境の工夫をしている。</p> <p>個々の成長・発達や生活リズムに配慮した保育を行い、保護者と共有している</p> <p>0歳児は個々のリズムを把握し、子どものタイミングに合わせて必要な睡眠を確保している。眠くない子は無理強いせず、徐々に入眠できるよう働きかけ、早く目覚めた子には絵本や静かな遊びを提供している。4歳児は進級に向けて徐々に5歳児は就学に向けて、午睡をなくしているが、健康状態や体力に合わせて休憩時間を取る等、個別に対応している。降園時にはできるだけ個別に声をかけて、子どもの様子を伝え、保護者との共有に努めている。伝達が必要な事柄については、各クラスの視診表、延長日誌の記載内容を確認して保護者に直接知らせている。</p>				
3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている			○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている			○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている			○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している			○非該当
評価項目3の講評				
<p>子どもが自分で選んだ遊びを十分楽しめるよう、遊び込める時間と環境を確保している</p> <p>一人ひとりの子どもが様々な遊びを自主的に選び、遊び込めるようなコーナーや部屋を分け、遊びの道具や環境を整え、子どもが自ら遊びたくなるよう援助をしている。園独自に「1日運動DAY」を実践している。テーマを決めて、各年齢や発達に合わせて、クラスごとにねらいを持ち取り組んでいる。園庭や遊戯室を活用し、平衡性、柔軟性、瞬発力、敏捷性を養い、体幹を鍛える運動遊びを職員が考え実践し、振り返りを行い、次の活動へとつなげている。子どもは、運動遊びが好きになり、転倒時に咄嗟に体を支える等の身のこなしを体験的に学んでいる。</p> <p>生活や遊びの場面での五感を使った様々な経験が、子どもの生きる力を育んでいる</p> <p>春のお花見、夏の水あそびや感触遊び、秋は落ち葉や木の実を拾い、冬には霜柱や雪あそび等、自然物と触れ合う機会を取り入れ、四季を感じるができるようにしている。天候に恵まれた日は毎日のように散歩に出かけ、散歩先で見た虫や草花を図鑑で調べたり、散歩中に発見した標識や店舗の看板をきっかけに文字に関心を持ち自ら書いてみたり次々と展開している。園では、えいご、たいそう、おんがく等の多彩な取り組みを提供している。また、とうきょうすくわくプログラムも取り入れ、たくさんの豊かな体験から子どもの生きる力を引き出している。</p> <p>生活や遊びの中で主体的に集団活動に関わり自分の気持ちを調整する力を育んでいる</p>				

施設内の絵本コーナーの開放を行い絵本や紙芝居、物語に触れる機会や時間を作っている。幼児クラスは、毎月近隣図書館でのおはなし会に参加し、言葉の感覚を養っている。年長児では子ども同士で話し合い、相手の立場に立って考え、ルールの大切さに気づく機会を意図的に取り入れており、子どもの思いを受け止め、生活や遊びの中で自分で考える、様々な経験を通して自分の気持ちを調整する力を獲得できるようにしている。日々の活動の中で安全に楽しむためのルールを子どもに分かりやすく伝え、決まりを守る必要性の理解や規範意識を育んでいる。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの発想を引き出し行事に取り組む過程を大切に達成感と心の成長を育てている</p> <p>子どもの興味・関心から発展させて行事につなげて、子どもが主体的に活動できるようにしている。保育士は子どもの思いを尊重し、日々の遊びから様々なヒントを得ている。幼児クラスはテーマを設け、そのテーマに沿った活動取り入れ発展させ、行事につながるよう工夫している。子どものやりたい気持ちを大切に話し合いを重ね、意欲的に経験できるようにし、友達からの刺激を受けたり、子どもの発想を引き出したりしながら、みんなで協力して、作り上げていくプロセスを重視している。経験したことがその後の活動へとつながる姿が見られている。</p> <p>子どもの気持ちを尊重しながら達成感 満足感を得られるよう必要に応じて援助している</p> <p>日常の保育を行事に取り入れ、達成感や満足感を感じる経験を重ねられるよう工夫している。夏祭りでは、5歳児が協力して神輿作りを行った。また、5歳児の行事「わくわくレジャー」では、年間テーマに沿った内容や子どもたちのやりたい事、興味のある事を実施している。子ども同士のグループで話し合ったり意見交換をしたり、協力し合う場を設けている。時には互いの意見がぶつかり合うような場面があっても、友達と活動する中で共通の目的を見つけ、やり遂げる喜びや楽しさを味わえるよう、子どもの気持ちを尊重しつつ、必要に応じ援助している。</p> <p>行事等の理解や協力を得るため、取り組みの様子を丁寧知らせ、保護者と共有している</p> <p>年度当初に年間行事予定表を保護者に配付し、行事の主旨を伝えている。行事終了後にアンケートを実施しており、集約結果は保育業務支援システムで配信して次年度につなげている。保護者参加の行事において、ねらいや取り組みの様子を伝えるとともに、子どもや保護者がどのようにしたら快適に心地よく過ごせるのか、職員の動きをどのようにしたらよいのか、事前打ち合わせを綿密に行い、細かな配慮のもとで実行している。子どもの意欲を知らせ目標に向かって努力する姿をクラスだより等に掲載し、保育業務支援システムやブログで配信している。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもの心情に配慮し、職員の関わりや環境に配慮している</p> <p>22時までの延長保育を職員のシフト制により実施している。朝夕保育は人数に応じた保育体制を整え、子どもが安心して過ごせるようできるだけ当番は、担任や慣れた職員が保育に入るように配慮して体制を組んでいる。年度の当初は、年齢ごとにコーナーを分けて職員が見守り保育にあたっている。乳児と幼児に分けて過ごし、人数が少なくなってきたら合同保育の形態をとり、定められた時間に補食や夕食を提供している。特に夕方の時間帯は、横になって体を休めたり、少人数で過ごせる空間を設ける等、子どもが落ち着いてくつろげる環境を整えている。</p> <p>保護者に子どもの様子を伝える際の伝達漏れに留意して対応している</p> <p>合同保育を行う1歳児保育室では、室内をコーナーに分けており、子ども一人ひとりが落ち着いて遊び込むことができる環境になっている。朝夕の保育では、年齢・発達や興味に合わせた遊具や玩具を揃え、日中の活動にも配慮し、静と動の活動のバランスも考慮しながら遊びを提供している。朝夕保育は、時間帯により職員の入れ替わりや保育形態が変わるため、引継ぎ事項等は、漏れの無いよう特に注意して対応している。当番の時間帯に起こった出来事や伝言は、担当職員から担任に報告し、翌日の昼礼でも子どもに関する情報を全職員で共有している。</p> <p>職員は全園児の様子の把握し、子どもと保護者が安心できるような対応を心がけている</p> <p>環境設定や玩具の選び方、年齢に応じた配慮等を考え、保育を行っている。異年齢保育の実際の場面では、子ども同士が互いの様子を気にしながら自然に関わる姿が見られる。職員は、クラス保育とは異なる子どもの姿を共感し、互いの保育を見合う良い機会となっている。また、送迎時に体調や機嫌等、子どもの状況を正確に伝えられるよう、職員一人ひとりが当事者意識を持って把握に努め、保護者とのコミュニケーションを大事にしている。子ども同士のトラブルについては、状況を詳しく把握している担当者が保護者に直接電話連絡する等対応している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>落ち着いて食べられる環境を工夫しながら、食べる楽しみへとつなげている</p> <p>区の献立を基に安心・安全な給食を提供している。0～1歳児は担当制による食事介助を行い、少人数の子どもを毎日決まった職員が援助することで、楽しく落ち着いて食べられるようにしている。子どもが食事の喜びを感じられるように声かけしながら、年長児では残食量を量り、食べられた量や残った量を、子どもにわかるようにグラフにして見える化し、食事への意欲へとつなげている。また、ランチルームを設け、食事と遊びの空間を分けており、個々の生活リズムに合わせた活動を保障するとともに、楽しく食べることができる環境を整えている。</p> <p>子どもが楽しく、安心して食べることができる食事を提供している</p> <p>毎月1回は、季節にちなんだ行事食や、誕生日メニュー等を取り入れ、子どもが食を通じて季節や文化を感じられるようにしている。給食会議を通してフィードバックを行い、給食の食べ進みが良かった物を把握し、調理方法や味付けに工夫をして次の給食提供の際に活かしている。離乳食は、家庭と連携して食形態を変える等、個別に進めている。食物アレルギーについては、栄養士を中心に園長・担任と保護者が面談を行い、医師の指示に従い除去食の提供を行っている。誤食を防ぐためマニュアルの手順を徹底し、細心の注意を払い食事の提供をしている。</p> <p>年齢別に担当栄養士を配置し、担任と連携した食育活動に取り組んでいる</p> <p>当園は2～5歳児に各クラス1名の担当栄養士を配置して、担任と連携して食育活動に取り組んでいる。食育計画を立案し、三食表で赤・黄・緑の三色食品群を示し、野菜スタンプ、野菜の栽培、皮むきを通して給食の食材に触れ、子どもの食に対する興味・関心を育てている。子どもと調理スタッフとのコミュニケーションを可視化した「給食室へのお手紙」を玄関ホールに掲示してやり取りしている。子どもからの意見や質問に対する調理スタッフの返信も掲示している。展示食の付近には、「たかま保育園のレシピ」を設置して、自由に持ち帰ることができる。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>看護師と保育士が連携して保健指導を積極的に行い子どもが関心を持てるようにしている</p> <p>年齢や発達に応じて楽しく理解できるよう年間保健計画に基づき、保健行事や保健指導を保育士、看護師が協力して実施している。見え方検査の前には目に関する話に触れ、嘱託医と連携し歯磨き指導と昼食後のブラッシング(5歳児クラス)、手洗い指導(2～5歳児)、プライベートゾーンについての性教育等、子どもが自分の健康や安全に関心を持てるよう看護師を中心に働きかけてきた。『いのちのおはなし』では、自分が大切にされる経験を通して自己肯定感を育み、自分も相手も共に体と心を大切にするということについて伝えている。</p> <p>専門機関や系列園との連携を図り、相談や連絡の体制を整えている</p> <p>日頃から嘱託医との連携を図り、けが、感染症、アクシデントについて、いつでも相談できる体制がある。熱性けいれん、アレルギー、皮膚疾患や、投薬が必要な場合は、保護者を通して医師の指示に基づき対応している。看護師は定期的に保健担当者の連絡会に参加し、各園の怪我や感染症の発症状況、対策に関する情報を共有し意見交換している。成長の過程で子どもの発達に気になる様子が見受けられる場合は、巡回指導を通して専門家からの助言を受け保育に反映させている。更に心配なことがあれば随時、相談できるよう専門機関との連絡体制を整えている。</p> <p>保護者と連携して、子どもの心身の健康維持と促進に取り組んでいる</p> <p>毎朝の受け入れ時の体調確認や、体調不良時の連絡、早めの受診や静養の勧め等、園長、副園長、担任と共有して対応している。乳幼児突然死症候群(SIDS)については、入園前の説明会で詳しく知らせている。保護者向けに資料を配付し、年齢に合わせて定められた時間ごとに寝ている姿勢、顔色、呼吸を確認、記録していること等、園での取り組みを説明している。事務所前に各クラスの病欠者数を天気のマークに置換して掲示している。園内に感染症が発症した場合は、感染症名と発症数の動向を、速やかに感染症掲示板にて保護者に周知している。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>様々な保育サービスを提供し、保護者の就労や個別の事情等のニーズに対応している</p> <p>朝夕保育、延長保育、休日保育を実施し、急な残業にもできるだけ柔軟に対応し、延長保育を利用している保護者の意向に応じて補食や夕食を提供している。地域の拠点施設として一時保育、緊急一時保育、休日保育、年末保育を実施し、保護者の就労を支援するとともに多様なニーズに対応できる限り個別の事情に寄り添うようにしている。年2回の個人面談を実施し、家庭の様子や育児の悩みを聞いたり、園での子どもの様子を伝えたりしている。職員会議の中で個々の事情を共有し、保育園ができる支援について常に念頭に置いて考えている。</p> <p>保護者同士が子育ての喜びや悩みを共有し、交流ができる機会を設けている</p> <p>毎日の保護者との会話では、遊びの様子やエピソードを具体的に伝えるよう努めている。クラス別の活動は、その日のうちに全クラス写真で知らせる「スケッチブック」を玄関ホールに展示し、過去のページも見ることができるよう工夫し配置している。各クラスで懇談会を実施し、子育ての喜びや悩み、身近な話題に触れ、互いに共感や情報共有しながら保護者同士の交流ができる機会を設けている。保護者からの質問や思いや要望を聴く時間も作っている。親子参加の行事は参加しやすい土曜日に開催し、楽しみながら保護者同士が交流できる場を設けている。</p> <p>養護と教育の一体性を保護者に伝え、連続した援助で養育力の向上につなげている</p> <p>園と家庭との連続性を考え、週案を廊下に掲示し、保育活動への理解と協力を求めている。クラスだよりを通して、子どもたちの発達や様子を保護者に共有している。また、システムによる連絡帳のやり取りや、日々の取り組みを写真とコメントで知らせる「スケッチブック」、乳児クラスの一日の様子の掲示等、様々な方法で日々、保育を発信している。「スケッチブック」は全クラス掲げ、一度に見てもらえるようにし、保護者が我が子だけでなく、多彩な活動の様子や子どもの姿を通して、成長の見通しを持ち、安心して子育てができるよう援助している。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>日常の活動に地域との連携や交流を取り入れて子どもの経験を広げている</p> <p>毎月1回3歳児から5歳児までが地域の図書館でのおはなし会に参加している。年齢に合った絵本や紙芝居を見せてもらう「おはなし会」は、子どもたちにとって、園とは異なる雰囲気で行われる特別な体験となっている。5歳児クラスが、シニア世代のための健康と交流の拠点(いきいきプラザ)での作品展に作品を出したり、訪問して歌やダンスを披露したり、伝承遊びを教えてもらったりする等、地域の人々との交流の機会を設けている。勤労感謝の日には、複合施設内の管理会社、高齢者施設、図書館を子どもが訪問し、感謝の気持ちを伝えている。</p> <p>保育園、学童、小学校、中学校が隣接する特色を活かした連携と交流を深めている</p> <p>当園、中高生プラザ、施設管理者が所属する「さんぽ一と港南運営連絡会」を定期的に行い、「さんぽ一とまつり」を共催している。港南子ども中高生プラザと協力し、ブースでの催しに地域の方を招き、入園前の親子、学童期の子ども、中高生と幅広く交流している。、同じ建物内の学童クラブやプラザに通所している卒園児も多く、毎日声をかけ合っている。中学生になった卒園児が職業体験で訪れる等、保育園・学童・小学校・中学校が隣接する立地を活かし交流を深め、地域との関わりの中で、子ども一人ひとりが体験することを大切にしている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	
内容①	各クラスでの活動にあたり、子どもの発達や興味・関心に応じた年間テーマを設定している。テーマに沿った遊びや環境構成、行事等を計画的に取り入れることで、子どもの探究心や主体性を育てている。学びのつながりを大切にしたい保育を継続していくことで、子どもの意欲を最大限に引き出し、共に楽しみながら実践を重ね、心身の発達の基盤を築いている。また、専門講師による年齢別の独自カリキュラムに基づき、子どもの興味や関心の芽生えを育む活動を実施している。講師による指導に触れることで得られる学びや気づきを、日々の活動に活かしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保育の見える化を進め、保護者との信頼関係を深め子どもの成長を共有している	
内容②	日頃からコミュニケーションを大切にして、保護者との信頼関係を築いている。乳児はシステムでの連絡帳の配信、幼児はスケッチブックを活用した日々の様子の共有等、子どもの姿を分かりやすく伝えている。保護者の思いを受け止めながら子どもの育ちを見守り、保護者が相談しやすい環境を作っている。また、働く保護者の状況に配慮した柔軟な対応、多彩なプログラムや利用者のニーズに沿ったサービス改善に努めている。職員は保護者に丁寧に情報を伝えることを重視し、子どもの育ちを共に喜び、安心して任せてもらえる関係を構築しながら対応している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル③	経営層的確なフォローで困難を解消し、職員が働きやすい職場を実現している	
内容③	組織として追求する価値を共有し、コミュニケーションをとり、共通認識に基づく一貫した運営を追求している。業務の遂行上、職員が困難に直面する際は、園長をはじめ上司が適切なフォロー体制を取っている。また園長が定期的かつ必要に応じて個別に面談を行うことで、職員が抱える業務内外の悩みなどの把握に努め、解決方法を共に考えている。理念や方針の共有、良好なコミュニケーション、様々なフォローと連携・協力・協働などが、働きやすい職場を支え、また高い定着率につながっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもとの信頼関係を築き、子どもが安心して主体的に活動を楽しめるよう援助している
	内容	乳児クラスでは担当制保育を実施し、子どもの愛着行動の形成に注目しポジティブな関わりから情緒の安定と信頼関係の構築を図っている。幼児クラスでは、年間のテーマを決めて保育を実践し、子どもたちが主体的に取り組める活動を通して探究心を育てている。実体験や多様な経験を重視し、自分で考えたり、相手の思いを受け入れたりする経験や学びを大事にして、子ども同士で課題解決する機会を取り入れている。職員は、子どもがわくわくする活動や環境を提供し、友達と協力しながらやり遂げる喜びを味わうことができるよう援助している。
2	タイトル	子どもの発信から豊かな保育を展開するため、様々な工夫の実践を重ねている
	内容	子どもの主体性を尊重した保育の実践としてコーナー保育を取り入れている。子どもが自分で興味・関心に応じて玩具や遊びを選択し、遊び込める環境を整えている。園舎の空間を生かした環境設定を考え、成長に合わせて工夫したり、変えたりして子どもの「やりたい」という思いが実現するよう取り組んでいる。保育士は子どもからの発信や反応を捉え、活動のプロセスを大事にして、働きかけや支援の工夫をしている。クラス間で意見交換し、感じたことを伝え合い知ることにより、活動を発展させたり、深めたりして実践へとつなげている。
3	タイトル	互いに支え合い、職員が力を発揮できる組織運営に取り組んでいる
	内容	職員一人ひとりの思いを聞いてチームとして支え合う関係性の構築や、互いを認め合えるような組織運営を追求している。保育の場面で個々の持つ力を発揮できるよう適材適所で配置し、安心して職務に就くことができるようにしている。全員で話し合う時間の確保が難しい中、外部研修で得た情報や学びを研修として園内で伝え共有し、クラスを交換した保育実践で視点を変えて気づきを得る等、より良い保育を考えるとともに職員間の交流を深めている。個々の職員が力を発揮し、より良い保育を共に考えられる組織づくりを志し、取り組みを継続している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員一人ひとりの意識を向上させ、組織のチームワークの促進に邁進していく
	内容	日頃から子どもの姿を職員間で共有し、実践を通じた保育の振り返りを積み重ねている。園としては、職員が悩みを抱え込まず、楽しみながら職務に励めるよう互いを意識し、一人ひとりが自分の思いを活発に発信できる環境づくりが必要だと感じている。それには職層や経験に応じた職員の気づきを尊重し、さらに新たな視点で柔軟な発想やアイデアを出し、個々の力を日々の保育に活かせるような組織環境の維持が不可欠となる。今後も対話を大切にし、保育の楽しさや難しさを語り合い、人材育成に努め、チームワークの向上を図っていくことを課題としている。
2	タイトル	引き続き保護者との信頼関係構築に努め、子どもの育ちを共有し保育を伝えていく
	内容	日頃から様々な機会を通して保育の見える化を進め、コミュニケーションを促進している。子育ての悩みや保護者自身のことなど、保護者の話を傾聴し、適宜面談時間を設ける等、対応や支援を行っている。園としては今後も、活動の報告に留まらず、遊びや活動のねらいや育ちの過程をわかりやすく伝え、園生活から子どもが様々な学びを得ていることや園の保育に対する理解を促進していく意欲を持っている。保護者との信頼関係を深め、子どもの姿を共有し、心身の成長をともに支えていくことを目指し、保護者支援を継続していくことを課題としている。
3	タイトル	近隣施設と協力、協働できる体制を強化し、園が主体となって地域交流に取り組んで行く
	内容	同じ建物内にある港南子ども中高生プラザや、地域住民の方、近隣の公共施設や関係機関と連携した地域の祭りや催しに積極的に参加し、子どもたちは、ふれあいや交流の機会を多く持つことができている。より地域に密着した園を目指していくためには、地域や関係機関との連携強化を試み、地区一帯にあるたくさんの地域資源をさらに活用していくことが有効である。今、行われている交流を大切にしながら、園が主体となって企画、立案した地域交流を積極的に行い、関わりを広げられるよう取り組みを実行していくことを課題としている。